



取材を終えて…

「まちに出かけて、まずは体験することで、気づくことはたくさんある。声を出して発信していくことが大切だな、と思います」

取材を終えた、読者モニターの飯山さんと大西さん。まちづくりの先輩に、直にお話をうかがって、たくさんの気づきがあったようです。感じたことを、他の読者モニターさんと話し合うことで、さらに考えが広がっていきました。

● 千葉さん

制度の内容をPRすることも必要ですが、ただお知らせするだけでなく、実際に利用・活用した方々の声も伝えていくことが大切だと、今回の取材の話聞いてあらためて感じました。

● 浅野さん

たとえば公園でのフリマやバザーなどのように、緑や花を扱うイベントを設けていくことで、緑や花の普及だけでなく、人と人が触れ合う機会=コミュニケーションにもつながることになると思います。

● 佐々木さん

いろいろなことを発信することが重要です。以前、私の家の近くの、工場跡地の桜の木を残してもらえようようお願いし、受け入れられた経験からも、声を出すことが大切だと感じました。

● 山野さん

緑や花は大事なんだと、あらためて実感しました。ゴミをポイ捨てしているような人でも、緑で安らぐことは好きはず。このように発信していくことで、みんなに感じてもらいたいと思いました。

● 村山さん

好きなことを伝えるのは、うれしいこと。澤田さんも、今回紹介することができてよかったと思っているのでは。ほかのいろいろな活動ももっと伝えられれば、「まちづくりは楽しい」と共感できると思います。

取材の報告を聞いて他の読者モニターさんもいろいろな意見を寄せてくれました。

実際に取材に行ってみて、純粋に緑を増やしたいと思っている人がいることに心を打たれました。そして、好きなまちにしていきたいためには、自分が今生きている時間のことだけでなく、次の世代にどんなものを残したいか、伝えたいか：そんな視点に立って考えてみる必要があるのではないか、と感じました。
正直なところ、生け垣をつくるということは誰もが気軽に取り組めることではないかもしれないませんが、そこまでハードルを上げなくてもいい、自分のできる小さなことが、まちづくりにつながるのだと思います。大切なのは、まちに出て何かを感じ、それを発信すること。取材に行き、初めてわかる発見でした。

景色は自分だけのものではなく、みんなでも楽しめるよね!

たとえ木1本でも、そこに緑があることで、自分だけでなくみんなで楽しめる、「借景」のような考え方も大切だと思いました。

せっきくの役に立つ制度、広くPRすることが大事だと思う

こんな制度があったこと、今まで知りませんでした。もっと広くPRしていけば、どんどん輪が広がるはず!

隣人や仲間がいれば、生け垣を育てていける気がする

澤田さんのようなお隣りさんや「生け垣サポーター」のような方がいれば、素人の私にもチャレンジできると思います。

「そもそも、まちづくりって？」今回の企画はそんな「マークからのスタートでしたが、意見交換を重ねるごとに、次第に熱を帯びていったことが印象的でした。最初は生け垣になじみのなかった方が熱心に取材報告をしたり、それを聞いた他のモニターさんたちが、それぞれの想いを膨らませて話を弾ませていく様子を目の当たりにしながら、まちづくりに、実際の状況を見たり聞いたり、そして伝え合ったりする「場」が大切だと感じました。
そして、この「korekara」では、そのような「場」に役立つような、まちのことを知り、まちをもっと好きになるきっかけになるような誌面を、みなさんとつくっていきたいと、あらためて実感しました。
今冬には、まちづくりに関するさまざまな制度をわかりやすく掲載した「手引き」も発行予定です。さらにまちを知るためのツールとして、活用いただきたいと思います。

まちづくりは、実際に見て聞いて伝え合う「場」が大切



まちを「緑」でいっぱい! ~みどり倍増プロジェクト~



▲立派な緑のカーテンが育ちました。
▶保育園の芝生化へ、みんなで作業!



今回取り上げた生け垣助成制度のほかにも、さいたま市では、「花や緑の豊かなまち」を実現するため、市民・事業者・行政が絆を深め、公共施設や家庭で取り組む「緑のカーテン事業」、公園・学校・保育園の校庭などを芝生化する「公共施設芝生化事業」などの「みどり倍増プロジェクト」に取り組み、日々の生活の場所などに花やみどりを増やすことを積極的に推進しています。